

# 第6類 酸化性液体 テキスト 1 特性と消火・予防

## 第6類の特性と消火方法

### 特性

- 全て自体は不燃性の物質です。
- 全て無機化合物です。
- 酸化力が強く、有機物と混合すると酸化させ発火する危険があります。
- 蒸気は有毒です。皮膚に接触すると、皮膚を侵します。
- 比重は全て1以上（水より重い）です。
- 容器は耐酸性のもので、密栓が必要となります。（過酸化水素のみ通気性のある栓が必要）

※ 「水と激しく反応する物質」「空気に触れると発煙する物質」「不安定で常温で分解が始まる物質」  
などがあります。

### 消火方法

- 水や泡消火剤を用いた消火が適切です。
- 二酸化炭素やハロゲン化物を用いた消火設備、炭酸水素塩類が含まれる粉末消火剤は不適切です。

※ 大量の水を用いて消火する場合は、危険物の飛散に注意が必要です。

※ 危険物の流出事故の場合は、乾燥砂をかけるか中和剤で中和することが必要です。

### 火災の予防

- 火気、衝撃、摩擦などの刺激は厳禁です。
- 通風のよい冷暗所に保管します。

## 第6 類危険物の特性と消火・予防練習問題

問題1 第6 類危険物の一般的な消火方法について、誤っているものはいくつあるか。

- A. 二酸化炭素消火器を使用する。
- B. 泡消火器を使用する。
- C. 霧状の強化液を放出する。
- D. ハロゲン化物消火器を使用する。
- E. 霧状の水を放出する。

(1) 1つ (2) 2つ (3) 3つ (4) 4つ (5) 5つ

問題2 第6 類危険物の取り扱い及び火災予防の方法として、誤っているものは次のうちのどれか。

- (1) 貯蔵庫の棚は木製のものを使用しない。
- (2) 窓を開けて通風をよくした部屋で取り扱う。
- (3) 取り扱うときは目や皮膚を保護して行う。
- (4) 使用するとき水で希釈してもよい。
- (5) 有機物が混入しないように注意する。

問題3 第6類危険物の取り扱い及び火災予防の方法として、誤っているものは次のうちのどれか。

- (1) 通風のよい冷暗所に貯蔵する。
- (2) 耐酸性の容器を使用する。
- (3) すべて密栓をして貯蔵する。
- (4) 加熱してはいけない。
- (5) 有機物との接触を避ける。

問題4 第6類危険物の性状として、誤っているものは次のうちのどれか。

- (1) 燃焼すると腐食性のある有毒ガスを発生する。
- (2) 可燃物と接触すると、場合によっては可燃物を着火させることがある。
- (3) 不燃性である。
- (4) 腐食性が強く皮膚を侵す。
- (5) 液体である。

問題5 第6類危険物に共通する消火方法として、誤っているものは次のうちどれか。

- (1) 危険物が飛散しないように水を霧状放射する。
- (2) 流出面積が広がらないように乾燥砂で表面を覆う。
- (3) 二酸化炭素消火器は使用できない。
- (4) 炭酸水素塩類が含まれている粉末消火薬剤を使用する。
- (5) ハロゲン系消火薬剤は使用できない。

問題6 第6類危険物の性状として、誤っているものは次のうちのどれか。

- (1) 不燃性の液体または固体である。
- (2) いずれも無機化合物である。
- (3) 水と接触すると激しく反応し、発熱するものがある。
- (4) 酸化力が強い。
- (5) 蒸気は有毒である。

問題7 第6類危険物の一般的な消火の方法で、正しいものは次のうちいくつあるか。

(ハロゲン化合物を除く)

- A. 二酸化炭素消火剤を使用する。
- B. ハロゲン化物消火剤を使用する。
- C. 炭酸水素塩類の含まれている粉末消火剤を使用する。
- D. 泡消火剤を使用する。
- E. 強化液消火剤を使用する。

(1) 1つ (2) 2つ (3) 3つ (4) 4つ (5) 5つ

問題 8 第 6 類危険物の性状として、誤っているものは次のうちのどれか。

- (1) 水で希釈すると激しく反応するものがある。
- (2) 加熱すると分解するものがある。
- (3) 還元性の強い物質である。
- (4) すべて無機化合物である。
- (5) 皮膚に触れると火傷を起こすものがある。

問題 9 第 6 類危険物の性状として、誤っているものは次のうちどれか。

- (1) 液体の可燃性物質である。
- (2) 有機物が混入すると、発火するものがある。
- (3) 湿気のある空気に接触すると、褐色に発煙するものがある。
- (4) 無機化合物である。
- (5) 水と激しく反応し、発熱するものがある。

問題 10 第 6 類危険物の性状として、誤っているものは次のうちのどれか。

- (1) 可燃物、有機物と接触すると危険である。
- (2) 日光の直射で分解するものがある。
- (3) 常温で安定しており長期保存が可能である。
- (4) すべて液体である。
- (5) 生体に対して有毒である。

問題 1 1 第 6 類危険物に共通する火災予防上、最も注意しなければならないものは次のうちどれか。

- (1) 凍結すると危険なので、貯蔵庫は常に 0℃以上に保つ。
- (2) 可燃物との接触を避ける。
- (3) 空気と接触させない。
- (4) 冷暗所に貯蔵する。
- (5) 常に乾燥状態で貯蔵する。

問題 1 2 第 6 類危険物の貯蔵で密栓して貯蔵できないものは次のうちのどれか。

- (1) 硝酸
- (2) 過塩素酸
- (3) 三フッ化臭素
- (4) 過酸化水素
- (5) 発煙硝酸

問題 1 3 第 6 類危険物の消火上の一般的な注意事項として、誤っているものは次のうちどれか。

- (1) 保護のためゴム手袋、保護めがね、防塵マスクを使用する。
- (2) 可燃性蒸気が燃焼するので、火災の場合、窒息性消火薬剤を使用する。
- (3) 多量の水を使用するときは、危険物の飛散に注意する。
- (4) 流出したとき、乾燥砂で覆うか中和剤で中和する。
- (5) 有毒な蒸気を発生するので、風下に位置しないように注意する。

問題 1 4 第 6 類危険物の火災予防の方法として、最も注意することは次のうちのどれか。

- (1) 静電気が発生しないように注意する。
- (2) 湿度を低くする。
- (3) 冷暗所に貯蔵する。
- (4) 空気と接触させないようにする。
- (5) 有機物を混入させないようにする。

問題 1 5 第 6 類危険物の消火の方法及び消火上の注意として、誤っているものは次のうちのどれか。

- (1) 熱分解をして可燃性蒸気を発生しているので、窒息消火が有効である。
- (2) 流出しているときは乾燥砂で流出を防止する。
- (3) 状況によって多量の水を使用するときは、危険物の飛散に注意する。
- (4) 有毒ガスが発生するので風の向きに注意する。
- (5) 燃焼物に対応した消火方法をとる。

## 第6類危険物の特性と消火・予防練習問題 解答

- 問題1 (2)
- 問題2 (4)
- 問題3 (3)
- 問題4 (1)
- 問題5 (4)
- 問題6 (1)
- 問題7 (2)
- 問題8 (3)
- 問題9 (1)
- 問題10 (3)
- 問題11 (2)
- 問題12 (4)
- 問題13 (2)
- 問題14 (5)
- 問題15 (1)